



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

4

2011, April

第1897回例会

平成23年4月7日

会報



THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST
Weekly Report

<http://www.tokachi.co.jp/wrotary/>



地域を育み、大陸をつなぐ

ゲスト 岡田稔彦 様



■会長報告

会長 鈴木 享



東日本大震災は、日を追って被害の凄まじさが明らかになってはいますが、未だ全貌さえ掴めない状況です。死者、行方不明は2万7千人を超え、今なお避難所におられる方が16万人、丁度、帯広市の人口とほぼ同じです。加えて、原発の問題が深刻です。復興も含めて、今後の日本のあり方が問われており、それは東北地方の災害ではなく、日本と日本人に突きつけられた歴史的課題とも言えます。さて、会員には大震災への義援金協力をお願いして参りました。お陰さまで総額73万円という、大変大きなお気持ちが集まりました。改めて、皆様に敬意を表し、心から感謝とお礼を申し上げます。

もう1点、ニコニコ献金の運用について報告します。今年度、会員みなさんにはニコニコ献金の今後の扱いにつきご意見を戴き、クラブ協議会でも検討を重ね、最終的に、堀委員長をはじめ「ニコニコ献金検討委員会」にご検討願い、そのご提案を3月の理事会にて尊重、協議し、決定しております。皆さんの協力、検討委員会の尽力に感謝申し上げます。以下、配布資料に基づき、説明。

【ニコニコ献金特別会計運用規定】

本運用規定は、広く会員の意見を聴取し、検討委員会にて協議を行い、2010～11年度の理事会において定めたものである。その目的とするところは、「ニコニコ献金」の有効活用及びそれによるクラブ運営の活性化に資することである。ニコニコ献金が、クラブ会員の善意の賜物であることに鑑み、「ニコニコ献金特別会計」にて一括管理を行う事とし、財政上の事由等により一般会計に繰り入れる事をしない。その活用については、5大奉仕の精神に基づく当該年度の会長の自由裁量に委ね、理事会がこれを承認決定した上で、年度方針としてその内容を会員に明示しなければならない。当然、これを活用した事業はクラブの活性化を促すものであり、奉仕の精神に適うものである事が求められる。上記前提に基づく、ニコニコ献金特別会計の支出目的は以下に定める。

- 1) 各年度において予め理事会で承認を得た事業
- 2) 各種義援金・寄付金等
- 3) その他理事会が必要と認めた項目（附則は略）

会 長	鈴木 享	広報委員長	高田 晃一
副 会 長	土肥 孝紀	広報副委員長	奥田 頼昌
副 会 長	齋藤 憲生	委 員	柳沢 一元
幹 事	古田 敦則	委 員	大須賀真太郎
会 計	小甲 哲士	委 員	谷脇 正人
S A A	若林 剛	委 員	河西 智子

2011年4月 雑誌 月刊

たいまつ宣言

- 1.我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を広げる
- 1.我々は 他に依存することなく 自らを発する
- 1.我々は 常に変革をもって 行動する
- 1.我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を実践する
- 1.我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

■出席状況報告

月/日	2/3	2/15	2/24	2/27
例 会	1890回	1891回	1892回	1893回
会員総数	62名	62名	62名	62名
出席計算に用いた会員数	55名	53名	56名	57名
ホームクラブ出席	49名	41名	43名	29名
メイクアップ	6名	12名	13名	28名
出席率	91.7%	88.3%	90.3%	96.6%
月平均	91.7%			

■今月の主な行事

- 4月 7日 結婚・誕生祝
- 14日 会員卓話
- 21日
- 28日 夜間移動例会



点鐘 鈴木 享会長
開会宣言 若林 剛SAA
国歌斉唱
ロータリーソング(四つのテスト)
たいまつ宣言唱和
ゲスト紹介

帯広市総務部総務課防災担当課長
岡田稔彦様

4月結婚祝い

親睦活動委員会 佐々木和彦委員長

堀 修司	会員	1973年4月29日
笹井 祐三	会員	1976年4月23日
佐々木嘉晃	会員	1982年4月25日
高田 晃一	会員	1984年4月15日
谷脇 正人	会員	1990年4月14日
天野 清一	会員	1990年4月22日
若林 剛	会員	1991年4月20日
神田 龍一	会員	1993年4月24日

4月誕生祝い

河合 健一	会員	1932年4月 3日
岡田 武稔	会員	1938年4月 1日
笹井 祐三	会員	1944年4月27日
渡部 省一	会員	1947年4月 5日
曾我 雄	会員	1963年4月 9日
熊切 宏樹	会員	1968年4月25日

バースデーソング

乾杯

横山明美会員



(会食)

会長報告

鈴木 享会長

会務報告

奥 敏則副幹事



①帯広東RC『夜間例会』

日時 4月12日(火) 午後6時30分
場所 帯広ワシントンホテル

②帯広南RC『創立記念夜間例会』

日時 4月25日(月) 午後6時30分
場所 北海道ホテル

③帯広西RC『夜間例会』

日時 4月28日(木) 午後6時30分
場所 シャレード

④ロータリーレート 1\$=80円

⑤『定例理事会』本日例会終了後

ニコニコ献金

親睦活動委員会



北川勝啓副委員長

鈴木 享会員 ニコニコ狂歌。今年もピカピカの一年生の登場です。『幼子の背中に踊る ランドセル夢にふくらみ 夢に弾ける』

堀 修司会員 3月末の道医師会にて、理事に再選され日本医師会の代議員になりました。4月23日東京で第一回の代議員会です。

川田 章博会員 「ロータリーの友」5月号に鈴木会長の投稿掲載が決まりました。久保会員に続きの掲載で、本当にうれしく思います。故宮野会員(かつての友委員)もきっと天国で喜んでいると思います。

神田 龍一会員 この程の東日本大震災に会員の皆様から義援金を集めているのは承知していますが、私は息子一家が多賀城市で被災し今も避難所暮らしのため義援金は息子一家に渡しますが、全員無事との連絡が来たときの感激を思い出しニコニコ致します。

斉藤 憲生会員 結婚祝いありがとうございました。

高田 晃一会員 広報担当の例会です。宜しくお祈りします。



東日本大震災、帯広市の防災対策

帯広市総務部総務課防災担当課長 岡田稔彦 様

この度の東日本大震災に多大なご支援をいただき有難う御座いました。

今日は帯広市の東日本大震災についての取組、災害対策についてお話をさせていただきます。

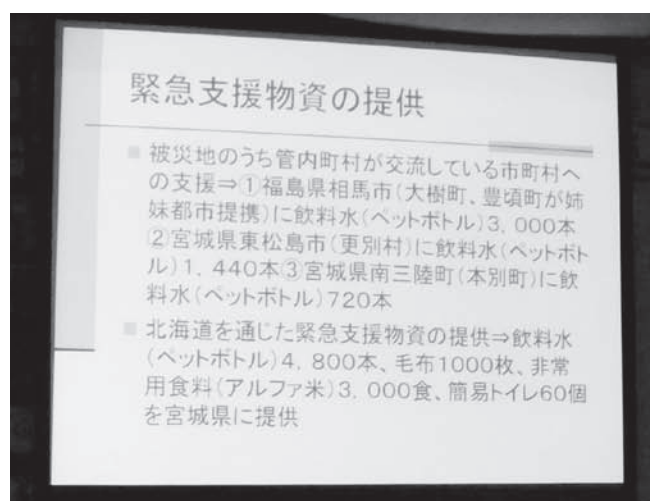
東日本大震災は3月11日14時46分に発生いたしました。震度は栗原市で震度7を記録しております。マグニチュードは9でしたが、20世紀以降に起きた地震ではチリ沖で発生しましたマグニチュード9.5が最大です。阪神淡路大震災に比べますと今回の自信は190倍の大きさになります。仙台市、宮城県、岩手県は地震に対してのインフラ整備がもっとも充実している地域でありましたが、想定している規模が7.6と今回の地震の130分の1程度であった為甚大な被害が発生しました。

被害は、死者・行方不明者は公証では27,000人以上で最終的には死者30,000人を超えるだろうと言われております。戦後最大の死者を出すのは間違いないだろうと言われております。避難をされている方々は16万とも17万とも言われて居ります。(ピーク時35万人以上) 避難所に行かないで住宅で不便な生活をしている方は3倍にのぼると言われています。



私ども帯広市の支援活動ですが、十勝管内町村会の本別町高橋町長(町村会会長)の呼びかけで、今回の被災地の支援はオール十勝でやろうと呼びかけがあり、帯広市長、経済団体の代表の方、農業関係の方と十勝振興局に集まりこれからの支援の活動を進めました。帯広市も募金活動は、(十勝震災対策協議会)組織で一本化して支援活動をしていく事になりました。まず人的な活動からご説明申し上げます。すでに陸上自衛隊第五旅団は宮城県石巻市をベースに活動を展開中です。活動の主体は救援というより遺体捜索を主体に過酷な状況下で活動しております。次に消防です。帯広市消防は、第一次派遣を宮城県石巻市で北海道隊(指揮隊札幌市)の下、救急隊3名が救急車を含め活動に当たっております。主に遺体の捜索活動に当たっております。道内では25隊100名ほどが活動しております。水道は日本水道協会からの要請で、現在第3次派遣隊(4人2班車両2台)が給水タンクを積み仙台市で活動中です。

緊急支援物資の提供として、交通事情も悪く前段は姉妹都市提携をしている町村を通じ市でストックしている飲料水(ペットボトル)一万本を提供しています。北海道を通じた緊急支援物資として、ペットボトル4,800本、毛布1,000枚、非常用食料(アルファ米)3,000食、簡易トイレ60個を要請が有りましたので提供しております。



又、市民からの支援物資を3月27日から8日間、旧第六中学校体育館で受け付けしました。非常に多くの物資が集まっております、当初は10トントラック1台の予定でしたが、今回は20トントレーラ2台と6トントラック1台で現地に輸送

する予定になっております。まだまだ足りませんので4月7日から一番必要とされている食べ物、ライフラインの復旧が難しい宮城県三陸町などは水が特に必要とされていますので募集いたします。

帯広市の義援金として議会の議決を受け1500万を中央共同募金会を通じて被災地に支援いたします。募金活動もオール十勝として募金箱を市役所1階、コミュニティーセンター等に設置してあります。

今後の活動として4月13日から19日まで市職員3名と、帯広建設業協会(萩原建設)から人的支援を頂き1名が同行いただき支援活動に加わっていただき支援活動をして参ります。これから被災地に長い間職員を派遣する予定もあります。全国市長会からの要請もあり最長3年間を被災地の自治体に派遣要請が有ります。帯広市として、1ヶ月単位の職員派遣を予定しております。考えられるのは下水道の技術者、保育士、メンタル面のサポートをする保健師などを派遣していきたいと思っております。

帯広市の防災対策についてお話しします。帯広市の防災対策には三つの柱に成っております。一つめは災害に強い町づくりは、インフラ、耐震化とハード面を主体にした町づくりです。二つめの防災意識づくりは、市民に防災の意識づくり、知識などを身につけていただくソフト面と成っております。三つ目は前の二つを兼ね備えた防災体制の充実となります。具体的には自主防災組織設立とか、災害の備蓄などどう進めていくかに成っていくと思えます。

東日本大震災は冬期災害で、帯広市の冬期災害対策ですが2月に避難所開設訓練を職員を対象に市町内会連合会とタイアップして宿泊体験をともなった訓練を実施しました。

私どもは屋内用大型ヒーターとか、パック式寝袋などを用意しました。これからどのようにしていくかを考えるために冬期防災訓練を実施しました。

これからの防災訓練の課題として、どれだけ良い準備をしても全部が機能しないと思えます、それには十分な判断力を高めていき混乱した状況に対処する訓練が重要だと思えます。

災害は甚大な被害をもたらしましたが、これからの新たな開拓となります、我々も被災者の

方々をこれから受け入れて行かなければ成らないと思っております。

謝辞
閉会宣言
点鐘

鈴木 享会長
若林 剛SAA
鈴木 享会長

お知らせ

4月はRI指定の「ロータリー雑誌月間」です。

次週プログラム予定

4月14日(木) 健康増進委員会
「会員卓話」